



読んでくれてありがとう！！

いつも農縁だよりを読んでくださり、ありがとうございます。
以前、第31回「農業委員会だより」全国コンクールに「農縁だより」をエントリーしました。
結果として、**全国農業新聞賞を受賞することができました！**

農縁だよりは、沼田市農業委員会の活動を知ってもらうことを目的として、
2022年度から作成が始まりました。今回の発行で10回目となり、今までも様々な
記事が掲載されてきました。

「農業委員会リレートーク」は、農業の魅力や農業のコツ、嬉しかった体験などを
実際に農業委員が原稿を書き、写真提供しています。

「春山明子の野生動物被害対策コラム」は、(株)群馬野生動物事務所の春山さん
のご協力のもと、効果的な鳥獣害対策を記事としています。

また、「STOP! 農作業事故」というシリーズでは、農機具に詳しい農業委員が
(安全に農作業をしてほしい)という熱い気持ちから、3パートにわたって掲載されました。

全ての記事には「農業の楽しさや魅力を伝えたい、安心安全な農業を教えたい。」という思いがこめられて
います。その思いは、これからも変わりません！



農縁だよりを読んでくださっている皆さま、記事を提供してくださる方々や
編集に携わる方々の存在あっての受賞だと感じています。

「農縁だより読んだよ!」というお声もいただいております、皆さまの一言一言が
農縁だよりの作成意欲につながっています。

多くの方々に心から感謝申し上げますとともに、今後の農縁だよりもよろしく
お願い申し上げます。

第1回ぬまた農縁を開催しました!

令和7年6月7日(土)第1回ぬまた農縁を開催いたしました!

今回育てていく農作物は、数ある沼田市特産物の1つ
“枝豆”です。枝豆を栽培している本市農業委員の
協力を得ながら、第1回では種まき作業を行いました。
また、講師をお招きし“モイストポプリ作り”を行いました。
参加者からは「皆で楽しく過ごせました!」
「また次回も参加したいです!」というお声をいただき、
有意義なぬまた農縁を開催することができました。

参加者の種まき作業を
見守る木内委員
背中の「豆王」が
カッコいいです!



頑張れ〜!

モイストポプリとは、花やハーブ
などの植物を、塩と混ぜ合わせて
作る室内香です。
バスソルトとしても、使うことが
できます。

第2回ぬまた農縁を開催します!

採れたての枝豆を
その場で実食!

- ・日程：令和7年9月6日(土)
- ・時間：10:00~14:00(予定)
- ・体験内容：枝豆の収穫/豆とり作業・BBQ
- ・参加費：2,500円~3,000円
- ・対象者：農業に従事している独身男性
→(沼田市在住に限定)
農業に従事または興味のある女性
→(市内外問わず)

※男女ともに20代~50代くらいまで(定員10名)
定員になり次第、募集は終了いたします。

お申し込みは、QRコードまたはお電話にて
※各回の申込期限は、開催日の1週間前(土日祝は除く)
詳しくは、沼田市ホームページやInstagramを
ご覧ください。

問い合わせ先 沼田市農業委員会事務局
Tel:0278-23-2111(代)/5019(内)

申込QRコード



～農業委員会 リレートーク～

リレートーク7人目は、千明 忍さんです。
利根地区でトマトの栽培をしています。



農業委員の千明です。
自然や鳥獣、害虫、病気などに打ち勝つため、日頃から努力をしています。
農業は決して楽な仕事ではありません。「失敗し、学び、改善する」の繰り返しです。
しかし、自分の努力の結果が「**形として現れる**」やりがいのある職業だと思っています。



トマトの苗
黄色のかわいい花が
咲きます。

春山明子の野生動物被害対策コラム 「⑥増加中のイノシシの被害対策」

こんにちは。私は野生動物による被害対策の仕事をしている株式会社群馬野生動物事務所の春山明子です。今回は、令和6年度から急増しているイノシシの目撃と被害についてご紹介します。

平成30年に岐阜県で発生した家畜感染症の豚熱（豚コレラ/CSF）は、全国23都県に拡大し、令和2年9月には群馬県内の養豚場で初感染が確認されました。同時期から群馬県の野生イノシシへと感染が広がり、生息頭数は激減したと考えられています。これまで沼田市内で捕獲・検査したイノシシ7頭からも豚熱の感染が確認されています。現在も県内で散発的にイノシシの感染が確認されており、終息には至っていません。

その中で、抗体を持ったイノシシが繁殖し、生息頭数が再び増加傾向にあると推測されています。沼田市役所へのイノシシの通報件数も、令和4年度以降再び増加しています。これはイノシシの特徴的な痕跡の目撃情報に加え、豚熱流行以降に生まれた警戒心の低い若い個体が人前や昼間に出没するようになり、通報が増加したことが原因です。

イノシシの被害対策①『餌付けを未然に防ぐ対策』の実施

野生動物は、一度餌付くと目的の物が無くなるまで繰り返し出没する傾向があり、農業被害が継続的に発生します。そのため、**『餌付けを未然に防ぐ対策』が重要です。**

まずは、イノシシが餌付きやすい**収穫残渣の適切な処理**を再確認してください。

また、晩秋から初春にかけて多く発生するイノシシの掘り起こしは、餌となる

草の根を食べるためです。**草の根は8～9月にかけて大きく成長するため、この時期に**

土手や耕作放棄地の草刈りをこまめに実施して、草の根が成長しないようにしてください。



イノシシの被害対策②『侵入防止柵の保守管理徹底』の実施

元タイノシシが多く生息している地域では、従来から侵入防止柵が設置されており、春期の保守点検作業が終わったばかりの地域も多いと思います。しかし、**恒常柵のイノシシが空けた穴を塞いでも、付近に再び穴を開けられて侵入される可能性があります。補修後も穴が空かなくなるまで繰り返し保守点検作業を実施**してください。

イノシシの増加率は約1.5倍と推測されており、生息頭数の回復による被害の再増加が危惧されています。そのため、今から『餌付けを未然に防ぐ』『侵入防止柵の保守管理徹底』を行い、被害防除に努めてください。

編集後記

こんにちは！農縁だよりを編集している石坂です。

今回の大見出しにもありますが、農縁だよりが全国農業新聞賞を受賞したことに、驚きと嬉しさが溢れています。

作成にあたり、いくつかこだわっていますが、一番のこだわりはイラストです。イラストが手描きになり、

「あ、制作者が変わったな」と読んでいて一目瞭然だったと思います。理由としては、手描きのイラストにすることで、お便り自体に親近感をもたせたいからです。また、他市町村の広報誌を参考に、読みやすさを研究したり、注目を集めるキャッチフレーズの勉強をしたりしています。

今後も、農業の魅力を全て発信できるよう努力して参ります。お楽しみに！！

農業委員会事務局 石坂 万陽

